
研究課題：アルファルファ「SBA0901」

担当機関：農研機構・北海道農研、道総研・上川農試天北支場、畜試、北見農試、根釧農試

協力機関：なし

1. 来歴

- 1) 品種名：「SBA0901」
- 2) 育成者：雪印種苗株式会社
- 3) 試験経過：栄養系評価及び多交配後代検定試験(芽室試験地及び別海試験地)の結果から 9 栄養系を選抜し、それらの組合せによる合成品種法により育成した。2011 年から雪印種苗株式会社北海道研究農場(長沼町)、同芽室試験地及び別海試験地で予備試験を実施し、春の萌芽、そばかす病抵抗性、収量性などに優れたことから、2014～2016 年に道内 5 場所において品種比較試験を実施した。

2. 特性概要 (標準品種「ハルワカバ」、比較品種「ケレス」と比較)

長所は収量が高く、そばかす病罹病程度が少ないことである。短所は特になし。

- 1) 早晚性は標準品種と同じで早生に属す。
- 2) 収量性は全道平均が標準比 110 で、「ケレス」の 103 と比べて高い(表 1)。
- 3) 永続性は標準品種と同程度からやや優れる(表 2)。
- 4) 倒伏程度は標準品種と同程度である(表 2)。
- 5) 秋季休眠性：「ハルワカバ」の 2、「ケレス」の 4 に対して中間の 3(休眠性強)である(表 2)。
- 6) 越冬性は標準品種と同程度である(表 2)。
- 7) 病害：そばかす病罹病程度は標準品種、比較品種に比べて小さく(表 2)、バーティシリウム萎凋病抵抗性は「強」である(表 2)。
- 8) 草丈は各番草とも同程度である(表 2)。
- 9) 混播収量：オーチャードグラスとの混播ではオーチャードグラスはやや高収でアルファルファが低収のため、全体でも低収である(表 3)。
チモシーとの混播では、チモシーが多収でアルファルファが低収で、全体ではやや多収である(表 3)。
- 10) マメ科率：オーチャードグラスとの混播では約 5 ポイント低く、チモシーとの混播では約 3 ポイント低い(表 3)。標準品種に比べてイネ科を抑圧する程度はやや低い。

3. 優良品種に採用しようとする理由

多収で、そばかす病に強く、バーティシリウム萎凋病抵抗性が強であるため、寒地のアルファルファ栽培の安定度を向上させ、栽培拡大に貢献できる。「ケレス」と置き換えて普及を図る。

4. 普及対象地域および普及見込み面積

道内一円、 37,000ha

5. 配布しうる種子量

年 15t を供給予定。市販種子の供給開始は平成 33 年を予定している。

6. 栽培上の留意点

なし

表1 3カ年の乾物収量標準比(%)

	北農研	天北	根釧	北見	畜試	平均
SBA0901	100	101	120	114	116	110
ハルワカバ	339.9	213.3	239.7	280.6	279.1	270.5
ケレス	95	101	112	104	102	103

ハルワカバは実数、kg/a

表2 単播試験における主要形質の調査結果

	SBA0901	ハルワカバ	ケレス	評価基準	備考
永続性	82	80	82	3年目／2年目の 乾物収量比(%)	全場所平均
バーティシリウム 萎凋病抵抗性個体率	81	78	46	%	北農研 接種検定
萌芽の良否	5.7	5.7	5.4	1:極不良－9:極良	4場所平均
越冬性	5.7	5.9	5.6	1:極不良－9:極良	5場所平均
倒伏程度	5.0	5.1	4.2	1:無・極微－9:極甚	5場所平均
そばかす病罹病程度	2.7	4.0	3.3	1:無・極微－9:極甚	5場所平均
秋季休眠性	3	2	4	1:極強－9:極弱	北農研
草丈(1番草)	109	108	109	cm	3場所平均
(2番草)	93	93	97	cm	3場所平均
(3番草)	62	62	64	cm	3場所平均

表3 混播試験における収量性形質の調査結果

	SBA0901	ハルワカバ	ケレス	評価基準	備考
オーチャードグラス収量	113.0	110.4	114.8	kg/a	北農研
アルファルファ収量	121.5	142.1	114.6	kg/a	3カ年合計
合計収量	234.6	252.7	229.4	kg/a	
マメ科率	52.4	57.8	50.5	%	全番草平均
チモシー収量	91.6	80.5	70.6	kg/a	根釧
アルファルファ収量	132.5	141.1	137.3	kg/a	3カ年合計
合計収量	224.1	221.6	207.9	kg/a	
マメ科率	59.2	62.6	65.3	%	全番草平均